

まほろばの丘から

[文責]

校長 江口 尋信



3年1組のSさんと廊下で出会ったとき、Sさんが次のような質問をしてきました。「校長先生、『国際理解は人間理解』というの、どういう意味ですか？」

太宰府西小学校に校長として赴任して4年目を迎えますが、この質問は初めてです。お気



付きのこととは思いますが、本校の正門に向かって左手側に「国際理解は人間理解」と書かれた大きな看板があります。このことについて、子どもたちに十分に説明をしてくれなかったと反省させられました。それと同時に、何気なく見過ごしてしまいそうになる看板のことばについて、「どういう意味かな？」と感じて質問できるSさんは

素晴らしいなと思います。なぜなら、「問うこと」こそ学ぶことの本質だからです。

1996年12月、太宰府西小学校は、国土社から「国際理解教育と国際交流」という1冊の本を出しています。この本には、「国際理解は人間理解」について次のように記述されています。部分的ですが、引用します。

国際社会で生きていくためには、お互いに、人間として尊重し合い、多様な価値観を認め合い、協調、協力し合って、共存を図ることが大切である。国際理解は人間理解であり、それは、異文化理解を深めることを通して人間理解を深めることでもある。今日、国際理解教育で大事なことは、人間理解を基盤に、我が国の文化と伝統を尊重すると共に、世界の国々の文化や伝統、生活習慣、価値観等を理解し、お互いに尊重し合い、相互理解に基づいた対等な人間理解の上に立って協調したり、協力したりできる人間を育成することである。

「国際理解教育と国際交流」(谷川彰英・太宰府西小学校 著 国土社) から

世界が「分断」し、「不寛容」な社会だと言われる今だからこそ、本校が掲げる「国際理解は人間理解」という考え方が大切になってくるのではないかと思います。上の傍線部分にあるように、「わたしもOK、あなたもOK」と考えられる子どもたちに育ってくれたら嬉しく思います。



4月25日、1年生が朝顔の種まきをしました。子どもたちは、嬉々として、「校長先生、種うえたよ!」と報告してくれました。(ほとんどの子に「園長先生」と呼ばれましたが・・・)入学式で「チャレンジの種」「なかよしの種」「元気の種」の話しましたが、子どもたちが植えたのは正真正銘、朝顔の種です。種を植える活動には、わくわく感があります。これから芽を出し、茎を伸ばし、花を咲かせるという楽しみがあるからです。毎日のお世話をがんばり、立派な花を咲かせてほしいですね。